



加速するキャッシュレスの世界 新貨幣の誕生を喜ばない事業者と 偽札よりも守りたい個人情報

～キャッシュレスの代償 切り離せない第二の心臓～

DELレポート No. 46

2024年12月

作成者:K.Y

 脱炭素経営ドットコム

By DENKOSHA



キャッシュレスの時代に新たな貨幣の誕生

■ そもそも貨幣を新しくする意味？ってなんなんだろう？

- 今年2024年の7月3日に**20年**ぶりに**新貨幣が刷新**され一部界限で盛り上がりを見せている
- **偽造防止**の観点で進歩した技術が使われており、世界共通の目的でもある**セキュリティの強化**が施されている
- デザイン変更に伴う**経済の活性化**も期待されている嬉しいその半面、スーパーマーケットやアパレルショップにある自動釣銭機、飲食店に置いてある自動券売機、駐車場にある自動精算機など、自動化された**既存の設備を**新貨幣に対応出来るように**アップデートしなくてはならない**側面もある

■ 新貨幣写真



出典:独立行政法人 国立印刷局

■ 新紙幣による企業への具体的な影響

1	企業の費用負担の増加 (機種入れ替えやシステム改修など)	55.5%
2	特需による企業の売り上げ拡大 (機種入れ替えやシステム改修など)	37.3%
3	肖像の人物ゆかりの地・企業の活性化 (イベントなど)	35.6%
4	キャッシュレス化の後押し	31.6%
5	偽札被害の減少	30.7%
6	企業における業務の混乱 (機種の納品遅れによる手間の増加など)	23.7%
7	詐欺被害の増加	22.2%
8	タンス預金の取り崩しによる消費拡大	20.6%
9	企業や個人のマインド (気分) の変化	19.1%
10	値上げのきっかけ	12.1%
	その他	3.4%

注: 母数は、有効回答企業883社

出典: PRTIMES(株式会社帝国データバンク)

設備投資の影響を受けるのは小売業やサービス業ばかり？

事業者の負担増で経営の危機！！

■ 知らず知らずのうちにキャッシュレス決済システムの導入を促されている？

● 飲食サービス業、小売業などで自動システムを使用している場合、新貨幣に対応すべく何らかの措置を取らざるを得なくなっている

- ① 新貨幣対応のものにアップデート → 事業者のコストはかかるが消費者への影響は特に無し
- ② キャッシュレス決済システムへ変更 → 1と比べコストは押さえられる為、導入しやすいが、現金主義者等の一部の客が離れる原因となる。
- ③ 自動システム導入を辞め、現状維持もしくは現金対応に戻す → 人件費が上がり商品の値上げの要因となり客足が減る

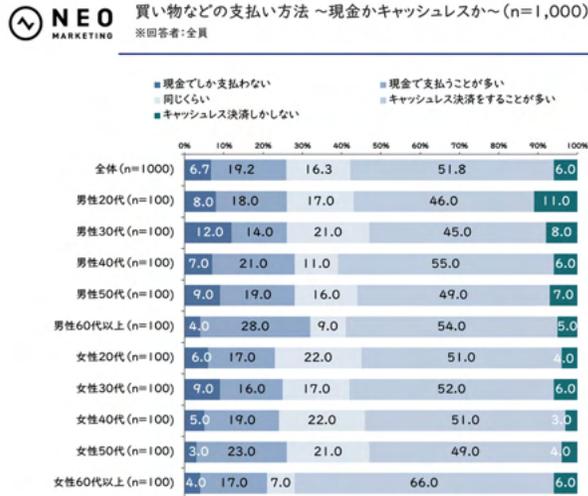
● ネオマーケティングが実施した調査結果によると消費者サイドもキャッシュレス決済を使用する機会が多くなっている為、今後キャッシュレス決済システムを導入する個人も事業者も増えそうである
 だがキャッシュレス決済の使用に賛成的でないユーザーにとっては、そもそもの**選択肢の幅が狭められてしまう**

■ 我が国のキャッシュレス決済金額及び比率の数位(2023年)



出典：経済産業省

■ 買い物などの支払い方法 ～現金かキャッシュレスか～



出典：PRTIMES(株式会社ネオマーケティング)

世の中の流れについていけない人々は取り残されてしまうのか…

キャッシュレスの一本化は本当に便利なのか？

■ 第二の心臓！？ ほとんどのシステムはスマホが1台あれば事足りる…

- 今の世の中、大概のことはスマートフォンというデバイスが1台あればなんでも出来てしまう。その為、導入の間口も非常に広い！
- 個人のキャッシュレス決裁への考え次第で、きっかけさえあれば**選択肢の幅が広がり、多くのメリットを得られる機会が増える**だろう。ただし入口が多すぎてどこから手を出していいものか、よりよいものが何なのか考えると情報過多でうんざりしてしまうし面倒である
- 面倒ではあるが普段の生活向上の為に、ちょっとでもメリットデメリットの一部を挙げてみよう

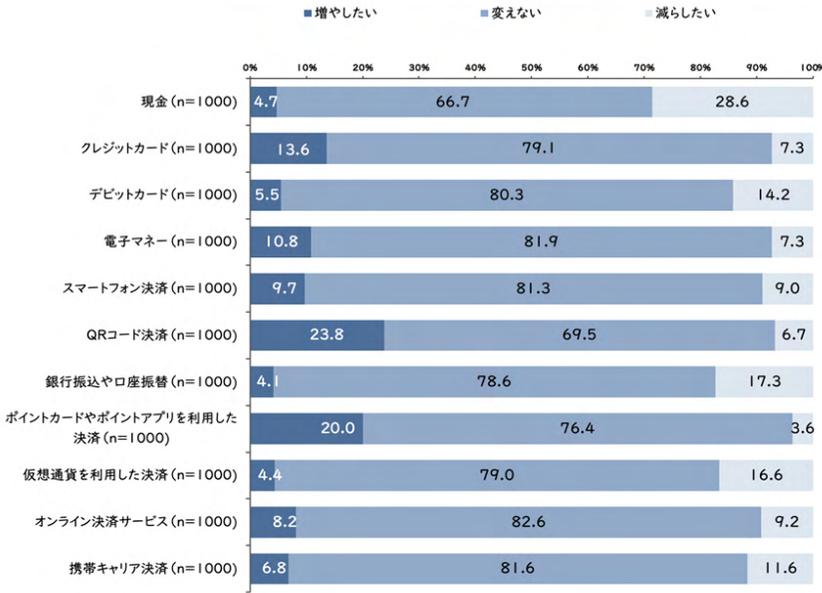
● メリット

- 銀行(キャッシュカード)と連携し振込等の簡略化
- Suica等のカードやスマホがあれば、現金を持ち歩かなくていい
- 現金をおろしたい時、ATMの手数料がかからない
- 支払い時にポイント還元や特典を受けられる機会が増える
- 会計がスピーディに決裁出来る
- 今後、マイナンバーカードとの連携により、給付金の受取りなど役所対応の手続きが簡略化できる

● デメリット

- 店舗がサービスに対応したシステムを導入している必要がある。
- お金を使っている感覚が薄くなる。金銭感覚が麻痺
- サイバーテロなどによる情報漏洩の懸念
- ネットワーク障害による一時的なアプリケーションの利用不可
- 電気が無いと設備が使えない。スマホのバッテリーも生命線
- 災害時などの通信障害にも弱い
- そもそもスマホが死ぬとお手上げ

■ 各支払いに対する、今後の利用頻度(n=1000)



出典：PRTIMES(株式会社ネオマーケティング)

スマホやキャッシュレス決裁の進化で便利になっていく世の中、その波は止まることは無いのか？
はたまたリスク分散の為、スマホに頼り切った生活を捨てることも必要なのではないだろうか

■ 参照・引用資料

- 独立行政法人国印印刷局,新しい日本銀行特設サイト,2024年7月23日 https://www.npb.go.jp/ja/n_banknote/index.html
- 財務省,「新様式の日本銀行紙の発行について」,2023年12月12日 <https://www.mof.go.jp/policy/currency/bill/231212.html>
- PRTIMES:株式会社帝国データバンク,紙幣の刷新、企業の35.1%が日本経済に「プラスの影響」「特需」「肖像人物ゆかりの地・企業の活性化」に期待、「費用負担の増加」55% 2024年7月12日 <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000898.000043465.html>
- 経済産業省,「我が国のキャッシュレス決済額及び比率の推移(2023年)」,2024年3月29日 <https://www.meti.go.jp/press/2023/03/20240329006/20240329006.html>
- PRTIMES:株式会社ネオマーケティング,「新紙幣とキャッシュレスに関する調査」,2024年5月28日 <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000482.000003149.html>
- PAKUTASO,お会計のトレイとクレジットカード決済用入力装置,2024年5月28日, <https://www.pakutaso.com/20140326062post-3892.html>



<https://de-denkosha.co.jp/datsutanso/>

脱炭素経営とは、再生可能エネルギーを創る「創エネ」、使う電気を減らす「省エネ」、創った電気を貯める「蓄エネ」をうまく活用し、会社・事業で排出する温室効果ガス「0」を目標にする経営のこと。

中小企業の私たちにも、できる取り組みが沢山あることを伝えたい。このような想いで、90年以上「電気」に向き合ってきた電巧社ならではのアイデアが詰まった創エネ、省エネ、蓄エネのソリューションをお伝えできる情報を、当サイトで発信しております。

DELレポートに関するお問い合わせ先はこちらへ

電気のコンシェルジュ

DENKOSHA

株式会社 電巧社

〒105-0014 東京都港区芝2-10-4

TEL: 03-3453-2221(本社代表)

担当: DELレポート事務局

- 本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
- 本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
- 本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
- 本レポートに関する知的所有権は株式会社電巧社に帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。